

カマラ・ハリス：ワクチン未接種者たちへのしつこい強制 を指令

バイデン政権が、7月4日の70%ワクチン接種達成を目指している

Jack Murphy @NeonNettle

June 23, 2021



ハリスが、アトランタの「活動家」に、「ワクチン拒否者」のドアを叩き、嫌がらせをせよと示唆した

Kamala Harris が、左翼活動家を喚び、まだワクチンを打っていないアメリカ人に、プレッシャーをかけてやれと促した。これは、ジョー・バイデンの7月4日のワクチン目標が、届きそうにないことを受けたものである。

この目標は、7月4日（独立記念日）までに、70%のアメリカ人にワクチン接種をすることである。

しかし、アメリカ人の中には、さまざまな理由から、Covid ワクチンを拒否している人々がいる。

バイデン政権は、現在、ワクチン拒否者に対して権力を振るう方法と思われるもののために、その70%の完了を目指している。

ハリスは、アトランタの「ボランティアたち」に、「ワクチン拒否者たちのドアを叩いて」嫌がらせをしようと呼び掛けた。

この副大統領は活動家たちに、ワクチンへの反対意見を克服するための、多くの指示を与えた。

「たとえば、あなたがドアをノックして、誰かが〈ワクチンを受けている暇がない〉と言ったら、それは人々が忙しいからだ」と、ハリスは言った。

「彼らは、きっとその日のどこかで、やろうとしているのだ。

「それとも彼らは、時間があるときには、いつも薬局が開いていないと言うかもしれない——ではそれは本当か？

「なぜなら、現在、薬局は全国的に、今日を含めて、6月の金曜日には、24時間、店を開けている——そのように教えてやればいい」と彼女は言った。

「なぜなら彼らがいるときに、彼らに出会わねばならない。仕事を2つ持っている人もいるだろう…

「そこで、彼らが仕事を休むわけにはいかないと言ったら、どうする？

「そのときは、こう言えばよい——全国を通じて、ワクチン接種のために従業員に、有給休暇を与えている雇用者がいます。そして我々は、もっと多くの雇用者に対して、同じことをするように奨励しているところです」と、言うように彼女は言った。

「ほかに、注射の後で、回復の時間を要する人たちがいるだろうか？ それで、子どもたちの世話をする人手がなく、時間が必要かもしれない」と、ハリスは続けた。

「だから我々は、YMCA や、〈子どもケア〉や、〈ケア学習グループ〉と組んで、ワクチン接種にも、その回復のためにも、無償で子どもの世話ができるようにしている。人々が、そういう所で出会うようにしなければならない。

「あなた方は、人々と話しあったり、ぶつかったりしている間に、〈車を持っていない〉とか〈自宅の近くまでやってくる公共のバスがない〉と言う人たちに会うかもしれない。

「これも、今、解決の手段の一つとして、相乗りの会社が、ワクチン会場への無料乗車を提供している」と、カマラは言った。

今週の初めに、「国立アレルギー・感染症研究所」のトップ、アンソニー・ファウチ博士が、バイデンは、彼の約束した、アメリカの成人の70%を、7月4日までに、ワクチン接種させる目標を果たしていないが、これは大した問題ではない、と言った。

「ゴールを定め、それに達すれば大したものだ。達しなくても、その努力を続け、ついに到達して、追い越せばよいのだ。だから私は、正直なところ、実はこのことで、あまり大きな期待はしていない」と、ファウチは言った。

[訳者 Greatchain 注]

カマラ・ハリスも、バイデンやファウチと同様、ワクチン接種を、民衆を強制して自由を奪う手段として、必死になって考えていることがわかる。しかし、最後のファウチの言葉は、アメリカの民衆が、彼らの罠には、ほとんど掛からなかったことを意味している。我が国の国家-主流メディア共同体も、カマラのこの**強制の動機が何であるか**を、考えてみるべきである。